別冊

九大広報

九州大学基金発信

vol. 2

2022 Dec.

特集

旧箱崎キャンパスを舞台にした寄附プロジェクト

旧箱崎キャンパスが生まれ変わります

●特別インタビュー

［ウクライナ学生・研究者支援基金］

オクサーナ・ウクライネッツさん

九大会員とは？

九州大学基金に一回1万円以上、又はクレジットカード決済で年2千円以上を継続的にご寄附くださる方への会員制度です。九大会員を対象にした学内外の特典を多数ご用意しています。

特典

博多座、福岡ソフトバンクホークスなどの有名企業の特典をはじめ、全国のホテル／レストランから地元密着型の店舗など様々！皆さまに喜んでいただける特典の充実に努めています。

特典の一覧はコチラ

「九大会員特典」で検索！

一部の特典は「学生証」の提示で九大生も使えます！

［ 九大会員 ］

［ 貢献会員 ］
累計寄附額：10万円以上

［ 名誉会員 ］
累計寄附額：50万円以上

九州大学基金公式SNS

九州大学基金では公式SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）を運営しています。九州大学基金ホームページと同様に、Facebook、Twitter、Instagram、LINEにて学生や教職員への支援状況、九大会員向けの特典等に関する情報を発信していますので、是非ご覧ください。

Facebook
［九州大学基金］
@kyudaikikin
facebook 九州大学基金　検索

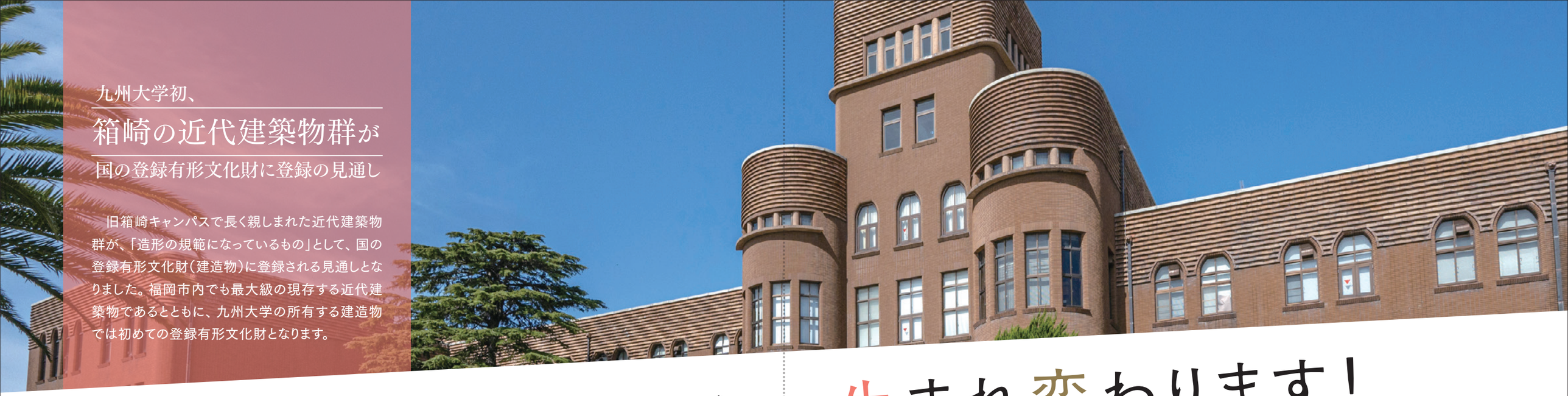
Twitter
［九州大学基金］
@kyudaikikin
twitter 九州大学基金　検索

LINE
［九大会員（九州大学基金）］
@iwa1859p
「友だちを追加」⇨「ID検索」⇨「@iwa1859p」で検索

Instagram
［九州大学基金・九大会員特典］
@kyudaikikin
「九州大学基金・九大会員特典」でユーザー検索

［発　行］九州大学総務部同窓生・基金課
〒819-0395　福岡県福岡市西区元岡744
TEL：092-802-2150　FAX：092-802-2149

九州大学
KYUSHU UNIVERSITY



九州大学初、
箱崎の近代建築物群が
国の登録有形文化財に登録の見通し

旧箱崎キャンパスで長く親しまれた近代建築物群が、「造形の規範になっているもの」として、国の登録有形文化財（建造物）に登録される見通しとなりました。福岡市内でも最大級の現存する近代建築物であるとともに、九州大学の所有する建造物では初めての登録有形文化財となります。

旧箱崎キャンパスが生まれ変わります！

旧箱崎キャンパスを舞台にした2つの寄附プロジェクトをご紹介

展示室

展示物

総合研究博物館

総合研究博物館 箱崎サテライト拠点化事業

九州大学が誇る約750万点の収蔵品のうち博物館が所蔵する約155万点を使って、箱崎サテライト旧工学部本館を拠点とした常設展示・企画展示・収蔵展示を新たに実施する予定です。一方、伊都キャンパスは収蔵に加え、研究・教育のための利用施設や展示機能を有した「伊都標本資料研究・教育ブランチ」を設けます。これらの博物館事業へのご支援をお願いするプロジェクトです。

▲プロジェクトの詳細はこちら

机や棚も一つの展示品です

百年の歴史の中で、研究者や学生たちが使ってきた棚や机も、歴史を刻んできた重要な資源。私たちはそれらも修理を加えながら利用して、懐かしい大学の雰囲気を残しつつも、レトロモダンで素敵な展示スペースを目指しています。

様々なつながりを生み出す市民に開かれた博物館へ

学びの場の提供やワークショップなどの体験型の催し、市民科学者（シチズンサイエンティスト）のためのリカレント教育、九州大学が有する歴史的建造物や元寇防塁遺跡などを組み込んだ箱崎サテライトツアーなど、人、組織、キャンパスをつなぐ取組を行います。また、これからの世界を作っていく最新の研究についても、地域の皆さまに知って頂ける展示・企画を考えています。

Message

総合研究博物館には、鉱物、技術史、化石、植物、昆虫、動物、古人骨、考古・歴史・民俗などの貴重な標本・資料が多数所蔵されています。これらはまさに九大百年の研究・教育を象徴するものであり、また、次の九大百年のさらなる発展の基層となるものです。これらの標本・資料に加え、箱崎の歴史文化資源である登録有形文化財に指定された近代建築物群や国指定史跡元寇防塁などを活用しながら、学内外に開かれた交流拠点として博物館活動を展開してまいります。

総合研究博物館
福永 将大助教

会議室

講義室

箱崎サテライト

近代建築物の保存活用プロジェクト～箱崎サテライト旧工学部本館改修支援事業

これまでに多くの人材を輩出してきた箱崎キャンパス。その中でも代表的な建築物群が立ち並ぶエリアを「箱崎サテライト」と名付け、引続き九州大学の一部として活用していくことが決まりました。保存される「旧工学部本館」「本部第一庁舎」「本部第三庁舎」「正門門衛所」「正門」は、建設当時の姿を残したまま新たな学び・交流の場として活用してまいります。学内外の多くの皆さまに親しみをもって快適かつ安全に活用いただけるよう、まずは大学のシンボルとして親しまれた旧工学部本館の改修工事を開始することとなりました。本事業は、建物の改修工事へのご支援をお願いするプロジェクトです。

▲プロジェクトの詳細はこちら

卒業生の記憶が詰まった大空間

正面玄関を入り中央に位置する講義室（写真上右）。威厳ある姿を残したまま、様々な用途にかなう空間へと内装のリニューアルを行います。

豪華な彩りを添える会議室

美しい絵画が一面を飾る壮麗な会議室（写真上左）。実際には叶いませんでしたが、昭和天皇のご来学にそなえて作られた特別な貴賓室でした。今までご覧いただく機会が限られていた部屋でしたが、今後は積極的な活用を検討しています。

実力派の洋画家青山熊治の遺作

名建築の姿を継承

外壁のスクラッチタイルは昭和初期に流行したもので、再現が難しく今では貴重なものとなっています。威風堂々とした姿を残しつつ、耐震性に配慮し修復を施します。

オクサーナ・ウクライネッツさん

2022年5月に開始した「ウクライナ学生・研究者支援基金」。皆さまのご支援をもとに、11月までにウクライナから6名の学生及び研究者を受入れることが出来ました。今回はキーウ国立大学から来たオクサーナ・ウクライネッツさんに、ウクライナの状況、九州大学での研究などについてお話をお聞きしました。

▲プロジェクトの詳細はこちら

「九大の刺激的な環境で研究だけでなく文化にもたくさんふれたいと思います。」

ウクライナからドイツへ。離ればなれになった家族

私はキーウから100㎞ほど離れた小さな町、ジトーミルに父母、妹2人と住んでいました。父は7年前だったでしょうか、40歳のころ軍隊を退きましたが、今回の戦争で多くの退役軍人と同じように父も支援部隊として復役しました。

2022年2月の侵攻が始まった後、私と妹2人は母とドイツに避難しました。20歳の妹は医学部の学生です。医師になるための試験が戦争で実施されていませんでしたが、10月に再開され、無事試験に合格して今は病院実習のためにウクライナに戻っています。8歳の妹は今もドイツでオンライン授業を受けています。ダンスやピアノなどの科目がなく、学校に戻りたいと言っています。

通っていた大学も攻撃を受け

2月の侵攻では、ウクライナ24州のうちの北部の街がロケットによる攻撃を受けました。月曜の朝7時だったかと思います。市役所が攻撃され、私が通っていた大学も同じく攻撃を受けました。5分毎の攻撃を受け、その間はずっと家族や友達と連絡を取り合い、ニュースを見ていましたが、誰かが撮った写真で毎日通っていた大学の廊下が破壊されているのを知りました。攻撃が朝早かったため、幸い大学では死者は出なかった一方、通勤時間帯だったことから街では多くの人が命を落としました。

日本へ行くのを躊躇う私を父が背中を押してくれた

私は修士で現代英語によるコミュニケーションを学んでいます。当初、日本に来ることは考えていませんでした。ウクライナからあまり遠い国に行くことは考えていなかったんです。そのため留学の申請などはしていませんでした。その時父が「なんで日本に行かないの？行きたかったんじゃないの？」と言ってくれました。父の後押しで、5月に文部科学省が出していた日本の大学の留学先一覧を探して申請し、8月に担当教員を見つけました。

九州大学はとても人気で大きな大学だったので来られると思っていませんでした。元々日本にはすごく興味がありました。日本人の気質やウクライナとは異なる文化が好きです。昔からの伝統、例えば生花や着物などと今の日本のカルチャー、そのミックス感が好きですね。ウクライナではオンラインで授業を受けていましたが、九州大学に来て対面で先生や友人たちとコミュニケーションが取れるのが本当に嬉しいです。現在は言語での政治のコミュニケーション、例えばイギリスの女性政治家、サッチャー氏の言語による影響を調べています。サッチャー氏に関する900ページに及ぶ本を図書館で探して調査中です。

九州大学に来て

九州大学は緑も多く、海も近くてとても気に入っています。現在は支援により寮に住んでいますが、とても快適で寮の方もとても親切です。色んな国・地域から来た人が寮には住んでいるのでとても刺激的です。10月1日に福岡に来て、もちろん研究が第一ですが、せっかく来たので日本の文化をたくさん見たい。週末には色々なところに積極的に行っています。御朱印帳も持っているんですよ。今度は住吉神社に行く予定です。

家族とは毎日ビデオコールをしています。もちろん今100%幸せというわけではありません。やはり家族や友人たちが心配です。ですが福岡でも精一杯やりたいと思います。家族もとても福岡に興味を持っていますよ。

ウクライナ学生・研究者支援基金

［募集期間］
令和4年5月～

［現在の受入額］
9,051,850円
（令和4年10月末現在）

九州大学基金

KYUSHU UNIVERSITY FUND DONORS NAME

寄附者様ご芳名
（五十音順・敬称略）

大学一任一般寄附

個人

青野 淳子
浅野 健
石橋 由紀子
石本 俊亮
出光 一哉
岩森 秀樹
宇草 太一
遠藤 佑
大野 隆行
鬼丸 奈美
景山 光世
鹿野 浩輝
河上 博喜
河口 豊
神崎 保孝
城戸 健
木下 隆介
木本 功祐
久保 進
黒田 照夫
古賀 芳秋
後藤 尚美
小橋 一彌
細波 隆
坂口 晴一郎
櫻木 信義
酒見 寿雅
品野 貞松
下村 三穂
昭仁 俊治
角田 昌史
田北 方衛
武内 敏秀
竹田 和昭
田中 孝夫
田中 信昭
塚田 征二
土田 充義
富永 崇司
塘田 義則
直井 博之
永島 小百合
永嶋 知子
永田 又次郎
長津 寛則
中野 結一郎
中原 光男
真希子
永松 文夫
南里 一夫
橋口 悦子
橋本 幸治
林 幸司
樋口 一也
廣田 憲治
福井 康太
藤田 靖英
舟木 幸太郎
古田 万紀子
前山 俊治
増本 道子
三浦 佳子
水上 鎮眞
三角 勝信
南舘 謙
宮田 愛子
森 淳也
森 哲哉
安武 聡
山崎 裕一
吉村 隆志
渡邉 憲人
他34名
（計106名）

企業・団体など

株式会社朝日酸素商会
株式会社アトル
安藤造園土木株式会社
株式会社イチデン
株式会社エース・ウォーター
株式会社鴻池組　九州支店
株式会社唐津自動車学校
一般財団法人九州大学出版会
株式会社コスモ
坂本産業不動産部
医療法人社団信愛会
医療法人透光会　井上眼科医院
医療法人八田内科医院
福岡海外株式会社
株式会社フジモト　福岡店
株式会社北洋建設
医療法人本家会
他1企業・団体
（計18企業・団体）

本欄では、令和4年6月1日から令和4年10月31日までに「大学に一任する」及び「一般寄附」に申し込みいただいた方のご芳名を掲載させていただきます。なお、「一般寄附」では、山川賞や課外活動支援など、学生に対する様々な支援助成事業を行っています。

使途特定プロジェクト

個人

青木 直之
赤瀬 清
麻生 賢一
飯田 智久
池上 孝雄
石井 靖男
石川 貴之
石塚 弥生
石橋 結花
伊藤 信二
井上 和秀
岩屋 美奈子
上杉 志朗
植松 繁規
梅田 慎治
大石 徹
大塚 正樹
大村 泰生
岡本 茂
小代 哲也
尾上 五男
甲斐 久史
貝沼 吉之
鹿児島 浩
梶川 智寛
梶山 千里
神村 彩子
川崎 輝之
河原 正裕
君付 隆
金馬 房雄
久保 千春
河野 俊行
小島 浩彦
後藤 成雅
後藤 哲秀
坂井 克己
櫻井 龍子
佐々野 彰子
塩川 光一郎
柴田 誠一
白井 武史
白石 晃明
澄子
秦 喜秋
杉村 隆史
鈴谷 瑞樹
住田 憲紀
関 忠
髙石 雅明
髙橋 利之
田島 和義
田中 清喜
田邉 萌
田畑 耕一
玉城 海里
土持 綾子
津守 都野 史朗
不二夫
十島（山田） 純子
十島 二朗
十島 雍蔵
富田 敏徳
仲曽根 昇
中野 光男
中村 隆彦
中村 直寿
中村 浩昭
夏目 みさき
新津 勝二
野田 康二
長谷川 保宏
波多 聰
羽田野 謙一
羽田野 大樹
花村 義久
濵崎 修一
林 幸司
原 裕介
原川 篤
東 忠節
東島 彰
久枝 良雄
平井 康文
藤岡 勇治
藤田 和子
藤本 望
古川 琢磨
堀内 和典
堀内 勉
堀内 良輔
本田 孝雄
前田 明子
松岡 重孝
松口 宰邦
松山 孝司
丸川 裕之
光永 幸生
南 淳一郎
宮西 圭太
宮原 千佳子
宮本 一夫
室園 万里子
籾井 勝人
森下 格
森田 輝之
諸藤 周平
八ヶ代 透
矢野 秀明
矢部 通隆
山本 貴義
横溝 太
横溝 真美
良永 順
吉丸 有里子
吉村 俊亮
吉元 利行
渡邊 公一郎
他104名
（計222名）

企業・団体など

株式会社サンケン・エンジニアリング
照栄建設株式会社
株式会社鈴屋商会
株式会社設備保守センター
大和電業株式会社
千代田興産株式会社
日米電子株式会社
日之出水道機器株式会社
株式会社広田工務店
福岡酸素株式会社
福岡市医師会
医療法人古森病院
株式会社福東電設
溝江建設株式会社
株式会社三好不動産
宗像緑地建設株式会社
株式会社八百治
八洲産業株式会社
株式会社安川電機
山本設備工業株式会社
株式会社リアン
株式会社レイメイ藤井
他5企業・団体
（計38企業・団体）

「使途特定プロジェクト」では、今回ご紹介したウクライナ学生・研究者支援基金など様々な事業を展開しています。本欄では、令和4年6月1日から令和4年10月31日までに「使途特定プロジェクト」に申し込みいただいた方のご芳名を掲載させていただきます。

Thanks for giving

「感謝の集い」を開催しました

寄附者の皆さまへ感謝を込めて

九州大学基金では、11月5日に特に多大なるご支援を頂いた寄附者の皆さまをお招きし、感謝の集いを開催いたしました。コロナ禍で近年中止が続いておりましたが、平成29年度以降久々の開催となります。

今回は40名の寄附者の皆さまにご出席いただきました。

バスツアー

BUS TOUR

伊都キャンパスを巡るバスツアーも開催しました。

車内では本学学生がガイドを務め、キャンパスを東西に横断しながら、特色ある建物をはじめ、キャンパスの歴史や自然について、寄附者の皆さんにご案内しました。

3年ぶりに走りました！

九大フィルによる演奏

懇談会

SOCIAL GATHERING

懇談の時間では、寄附者の皆さまの各テーブルに学生、研究者が参加し、これまでの活動報告などを行いました。寄附者の皆さんも積極的にご質問頂きありがとうございます。

盛会のうちに終了した今回の感謝の集い、ぜひ来年も開催し、皆さまにご支援頂いている九州大学、積極的に活動している学生や研究者の「今」そして「これから」を伝えていきたいと思います。

※令和5年度より、当該年度にはじめて功労賞以上になられた方、その他所定の基準に達せられた方を「感謝の集い」にご招待いたします。

活動報告

PRESENTATION

感謝の集いでは、総長の挨拶に始まり、古屋ファンドレイジンググループ長の九州大学基金の状況についての報告の後、研究者・学生5名からの活動報告を行いました。

日下部教授、西田教授は新型コロナワクチン・治療薬開発寄付口座による寄附事業を通じての研究成果です。農学と薬学と異なる分野からそれぞれワクチンや治療薬への新たな可能性を見出す非常に興味深い内容でした。

山西教授は我が国発の破壊的イノベーションの創出を目指し挑戦的な研究開発を推進する国の新たな事業「ムーンショット型研究開発事業」に採択され、プロジェクトリーダーとして進めている研究成果についてお話頂きました。

日下部　宜宏
（農学研究院　教授）

西田　基宏
（薬学研究院　教授）

山西　陽子
（工学研究院　教授）

さらに山川賞受賞者2名からは、自分の興味から社会的課題を見出し、実行する、山川賞にふさわしいわくわくする活動を報告いただきました！

小川　竜矢
（農学部4年）

得津　京佳
（共創学部3年）